

令和6年度 特色ある道德教育推進校

県立松尾高等学校

研究主題

福祉マインドを育成し、コミュニケーション能力を高める道德教育の充実

取組1 福祉マインドの育成

工夫1 生徒全員の福祉マインドの向上

本校には2年次からの選択科目として福祉コースが設置されていて、科目選択した生徒は介護職員初任者研修を取得する等福祉マインドを高めることができています。しかし、福祉コースを選択する生徒は学年の5～7%にとどまっているので、道德教育を通して、学校の特色の一つである福祉マインドを育成することを目的として以下の通り研究に取り組んだ。

- (1) 城西国際大学福祉総合学科と連携し、共生社会を目指して「パラスポーツを通したインクルーシブ教育の充実」に取り組み、福祉マインドの育成を図る。
- (2) 研究実施前後での生徒へのアンケートにより福祉マインドの向上を検証する。

工夫2 外部講師による事前研修会

城西国際大学、福祉総合学科長・小川智子教授に講演をいただき、「障がい者スポーツの魅力を一緒に考えよう」をテーマに障がい者のストレングス視点からパラスポーツの魅力を共に考えた。

11月のパラスポーツ体験公開授業にむけて、パラスポーツについて基本的な知識や接し方を学ぶ良い機会となった。



工夫3 居場所カフェの実施

地域の福祉協議会や福祉団体と連携し、高校在学中も含め卒業後の生活においても、困った時に相談ができたり援助してもらえる社会のセーフティーネット組織について知る機会とする。フードロス削減のための取組についても紹介した。



取組2 学校教育全体を通じた道徳教育の充実

令和6年度 道徳教育の全体計画

関係法令	学校の教育目標	生徒の実態
- 憲法 - 教育基本法 - 学校教育法 - 学習指導要領	- 心身ともに健康で、活力ある生徒を育てる。 - 自主的・自発的な学習を行い、自らの人格の陶冶を志す人を育てる。 - 勤労を尊び、社会に貢献できる人を育てる。 2030年に地域で活躍するグローバル人材を育てる。	- 穏やかで、協調性に富む生徒が多い。 - 自主的に取り組む姿勢・資質の向上が望まれる。
保護者の願い	道徳教育の重点目標	地域の実態・願い
学習や学校生活を通し、生徒個々の能力を引き出し、高めたい。	「生きる力」の基となる、豊かな人間性を育てる。 - 教育活動全体を通して、人間としての在り方・生き方に関する教育を実施する。 「道徳」を学ぶ時間の概要(教育課程上の位置付け・学習内容等) - 生徒が直面する問題について理論と実践から考えさせる。公民科倫理の教科内容を応用した教材を作成し、生徒の実態に応じて様々な資料を用意する。また、視覚教材も活用していきたい。	挨拶や時間への意識、身だしなみなど基本的な生活習慣の確立に重点を置き、社会に適用する人材を育ててほしい。
各教科・科目	各学年(年次)の重点目標	総合的な探究の時間
国語 ・国語による表現力と理解力を育成し、言葉で伝え合う力を高める。 地理 ・我が国と郷土を愛し、他を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献する態度を育てる。 公民 ・人間としての在り方、生き方について考える力を養う。 数学 ・事象を数学的に考察し、裏面する能力を高め、数学的論議に基づき判断する態度を養う。 理科 ・自然の事物・事象に対する関心や探究心を高め、生命を尊重する態度を育成する。 体育 ・運動技能の習得とともにルールやマナーを大切にしようとする態度を育成する。 芸術 ・表現及び創造活動を通して豊かな感性を育み、充実した生き方を追求する。 外国語 ・言語活動を通して相互理解を深め、国際社会に貢献できる人間を育成する。 家庭 ・生活に必要な知識と技術を習得し、主体的に生活を想像する能力を養う。 情報 ・社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。 職業 ・知識・技術を習得し、主体的・合理的かつ倫理観をもって活動する態度、および創造的な能力と実践的な態度を養う。 福祉 ・知識や技術の習得を通して、社会への奉仕の意識や人間尊重の精神を育てる。	1学年(年次) ・基本的な生活習慣の確立を支援する。 ・自己の生命・考え方を尊重する精神を、学年単位の活動を通して体得させるとともに、人間としての在り方を考える機会を学年として設定する。 2学年(年次) ・修学旅行などの学校行事全体を通して、他者への思いやりを育む。 ・H R活動、部活動などにおいて、自己の役割と責任を自覚するとともに協働する態度を養う。 3学年(年次) ・個性や立場を尊重し、ものの見方、考え方の違いを認め合う心を育てる。 ・集団生活向上のため、役割と責任を自覚し、自ら行動する態度を養う。 4学年(年次) 	1年次 柔軟な感性をもった人間を育成するために世の中の様々な職業について理解させる。 2年次 相手の立場や個性を重んじる広い心を育成するために、マナー講座や作文指導によって表現力を身につけさせる。 3年次 自己実現のために努力すること、社会の中での役割を考へ、社会の一員としての意識を高める。 特別活動 ・生徒会活動や委員会活動を通して、生徒の自主的な活動を促進することでリーダーを育成し、自治能力を高める。 ・L H R活動等を通して集団生活の中で自己の意見を尊重し、自己の役割を果たし、協力し合つて物事を達成しようとする態度を育てる。 課外活動(部活動等) ・生徒の自主的な活動を基にして興味や個性、才能や志によって創造的に行う。 ・活動を通して、忍耐力や克己心、達成感や成就感を実感し、豊かな人間性を培う。 ・協調性を培う観点から、基本的には全員参加を勧める。
生徒指導	キャリア教育	家庭・地域との連携
- 基本的な生活習慣を確立し、心身ともに健康で活力ある生徒を育てる。 - 礼節を重んじ、自らの人格の陶冶を志す人を育てる。	総合的な探究の時間やインターンシップを通して、集団における役割を自覚し、相手の立場を尊重する気持を育てる。	- 学校が、地域や保護者との連携を図る過程で人々が社会を構成する一員であることを理解させる。 - 地域と連携して探究活動に取り組み、主体性やコミュニケーション力を育成する。 - 学校運営協議会を通じて地域と協働し、学校の活性化を図る。
中学校との連携		
近隣の中学校からの資料の提供や授業研修を通して、継続性のある道徳教育の実践を工夫する。		

令和6年度 「道徳」を学ぶ時間 年間指導計画表

月		特別活動		学校行事・生徒会活動		総合的な探究の時間	
		日	内容	日	内容	日	内容
4月	11		コミュニケーション講座	19	入学式		
				18	評議員会(自分の役割を自覚する)	1	
						25	探究活動「オリエンテーション」
5月	1		接枝大会役員決め	1			
	9		連絡希望調査(自分の将来を考えよう)	16	生徒総会	9	探究活動「My will List作成」
	30		文化祭役員決め	24	接枝大会	4	
				25	校内道路説明会	2	
6月	13		レクリエーション(学年)	1		13	探究活動「地域の課題を考える①」
	20		明日への扉IV「一人の人として」	1			
				27	プロフェッショナルから学ぶ	1	
7月	17		学年集会	17	防災訓練	1	
				18	交通安全講話	1	
8月							
9月	12		体育祭役員決め	1			
	19		薬物乱用防止について(標榜作成)	1		25	探究活動「課題の設定①」
				27	校務祭	2	
				28	校務祭	2	
				3	体育祭	2	
10月						10	探究活動「課題について調べる①」
11月	14		道徳公開授業	2		2	
				21	生徒会役員選挙	1	
				28	連絡ガイダンス	1	
						5	探究活動「課題についてまとめる①」
12月	19		学年集会	19	薬物乱用防止教室	1	
1月						9	探究活動「発表準備①」
						16	探究活動「発表①」
2月						13	探究活動「振り返り」
3月	19		学年集会	1			
				13		22	

重点目標にある「グローバル人材育成に向けた取組の充実」を達成するため、地元の自治体や企業との連携により異文化を理解させグローバルな視点を育成することに関連させ、地域の方々より講演をいただいた。

総合的な探究の時間や特別活動の時間を活用して道徳教育を行った。

主な成果(○)と課題(●)

○パラスポーツに対しての考えでは、「みんなで楽しみながら行えるスポーツ」や「面白い」の問いに対して、肯定的な意見は事前に比べてパラスポーツ体験後では90%を超えている。アンケートから生徒の内面の変化をとらえることができた。また、「パラスポーツと聞いて何を思うか」に対して、「障害をもった人がやるスポーツ」と答えた生徒が事前と事後では41名から19名へ、「どんな人でも楽しめるスポーツ」と答えた生徒が2名から19名へ変化していることからパラスポーツへの認識の変化がうかがえることから福祉マインドが向上していると考えられる。

●生徒同士で自分の感じたことを発表し話し合う機会を設定することで、様々な意見から自分の考えを深化させる場面が必要である。教科等横断的な取り組みに発展させることで主体的対話的で深い学びにつなげることが課題である。

授業実践事例

千葉県立松尾高等学校 1 年 A B C 組 合同 「道徳」を学ぶ時間指導案

令和 6 年 1 1 月 1 7 日 (木)

1 主題名 パラスポーツ競技体験による福祉マインドの育成

2 ねらいと教材

パラスポーツの競技体験を通して、お互いを尊重し理解し合える共生社会の基盤となる福祉マインドの育成を図る。

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

パラスポーツ競技を体験することにより、共に命を輝かせ共に支えあう喜びを理解し合える共生社会を目指すとともに、その基盤となる他者に対する敬愛と助け合いの精神を持ち実践できる力を育成することは重要である。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

生徒の多くは障がいのある方と接した機会は少なく、障がい者に対する理解度は低い状況である。障がい者理解の導入としてパラスポーツ体験を企画したが、生徒がどの程度興味を示すかについては心配であった。誰でも気軽に参加できるパラスポーツの楽しさを十分に感じ取ることで、パラスポーツに対するイメージにも変化があることが期待する。

(3) 使用する教材やそれを生かす具体的な活用方法

今回はパラスポーツ体験としてボッチャとフライングディスク及び車椅子バスケットの3種目を3会場で実施した。特に車椅子バスケット元日本代表選手の巧みな車椅子操作を目のあたりにし、さらにミニゲームを体験することでパラスポーツへの魅力を大いに感じることができると期待する。

4 展開

過程	学習活動と主な発問 (○)	予想される反応	指導上の留意点 評価
導入 (10)	・ パラスポーツを体験する 目的を確認する。		・ 目的を生徒にはっきり 伝える。 ・ 安全のため指示に従う ことを伝える。
展開 (90)	以下の3種目に分かれ、30 分ごとにローテーションし		

	て体験する。 車いすバスケットボール フライングディスク ボッチャ ・種目担当者から説明の後 に競技を体験する。 ○ルールや競技方法につ いて質問があるか。 ○各種目のどのようなと ころに興味があるか。	○競技方法についての 質問。 ○競技ごとの面白さの 追求や興味関心の増加。	・わからないことは担当 者に直接質問させて コミュニケーション をとらせる。 ・準備や片づけを自主的 に行動させる。
終末 (10)	・アンケートや振り返りシ ートへの記入。		・パラスポーツに対する 認識の変化を確認す る。

(5) 他の教育活動との関連

総合的な探究の時間では、共生社会について取り組んでいるグループも多く、今回の取組からさらに発展させることで、有意義な活動となることが期待できる。

5 授業の様子

(1) 体験の様子

体験用に12台ものバスケットボール用の車椅子の準備をいただいた結果、生徒全員がその操作性の良さを体感し、ミニゲームまで体験することができた。



(2) 生徒の様子

パラスポーツに対しての考えでは、「みんなで楽しみながら行えるスポーツ」や「面白い」の問いに対して、肯定的な意見は事前に比べてパラスポーツ体験後の事後では90%を超えており、とくに「そう思う」と回答した生徒の増加が著しい。

